

アコヤガイモニタリング調査結果

(調査日：令和8年6月26日)

愛媛県農林水産研究所水産研究センター

1 調査結果の概要

- ・貝柱のグリコーゲン含量や貝肉の状態は、前月と比較して一部で低下が認められた。
- ・出現割合は低いものの、真珠層の褐変個体が確認された。
- ・貝柱の赤変個体は確認されず、赤変度合いを示す a 値の平均値も低かった。
- ・水温は平年より高めに推移しており、各地でウイルス遺伝子も検出されています。貝の観察及び管理には引き続き十分注意してください。

2 調査結果一覧

() 内は昨年同月の値

漁場*1	貝の種類 (R7産)	グリコーゲン含量 平均値 (%)	a 値 平均値	赤変個体 (個)	褐変個体 出現率
北部	日中交雑貝*2	1.5 (3.9)	-0.9 (-1.5)	0	0%
中部①	日中交雑貝	2.7 (6.8)	-0.8 (-1.5)	0	5%
中部②	日中交雑貝	3.5 (4.9)	-0.5 (-1.3)	0	5%
南部	日中交雑貝	2.5 (4.6)	-0.2 (-1.0)	0	5%
平均値		2.6 (5.1)	-0.6(-1.3)		

*1 漁場： 北部：三浦半島以北 中部：由良半島から三浦半島 南部：由良半島以南

*2 日中交雑貝：日本貝と中国貝の交雑貝

3 調査方法

- ・5月から11月まで月1回(概ね第3週)、各漁場・種類毎に20個を調査。
- ・サンプルは、愛媛県漁業協同組合本所宇和島事業部が、調査日2日前をめどに各漁場で採取して持ち込んだアコヤガイ母貝(2年貝)。

4 調査項目および判断指標

- ・グリコーゲン含量(%):アコヤガイの栄養蓄積状態を示す指標で、数値が高いほど良好。
- ・a 値:閉殻筋(貝柱)の赤色度を示す指標で、数値が高いほど赤みが強い。
赤みを帯びた黄色で3、明らかな赤色で5以上。

「アコヤガイ飼育管理の手引」公開中

<https://www.pref.ehime.jp/uploaded/attachment/111520.pdf>